

☆Live Bar雷神Presents：ばぐーす長谷川 ロック向上委員会☆

『第一回2020年5月 / The Roots』

～まずはロックに触れてみる→ばぐーすが通ったロック道～

第一回目は名刺代わりとして、私ばぐーす長谷川のルーツ/バックグラウンドとなるロックの作品を紹介します。

私と皆さんのルーツは、当然ながら同じではありません。皆さんには皆さんのルーツ/バックグラウンドがそれぞれ存在しています。ただ、常に自分のルーツ/バックグラウンドを考えながら(感じながら)生活している方は少ないのではないのでしょうか。

『自分のルーツを常に感じる』 『自分のバックグラウンドを理解して行動する』

上記の2点は、私が自分をコントロールする際、そして私の存在を相手に知ってもらう為、常に頭の中に入っている事柄であります。

そのどこがロックと関係するのか？それをシンプルに言葉で説明するのは困難ですので、とにかく“感じて”ください。本日まで紹介するロックの作品と私のルーツ/バックグラウンドを感じて頂きながら、皆さんのルーツ/バックグラウンドをも明確にしていきましょう。

■バグースの幼少期～小学校生活を彩った名作 (1975~1980)

The Beatles / No Reply (Beatles For Sale : 1964)



The Beatlesの4th作。The Beatlesの作品中、最も評価の低い1枚ではあるが、アイドル然とした作風から落ち着いた雰囲気に移りし始めた過渡期だからではないだろうか。メロディの組立方等、これまでになく雰囲気の楽曲が多く含まれており、カバー曲も秀逸な出来上がりである。

<https://www.youtube.com/watch?v=YgFo9STa70E&list=PLg5pp7nrH0IpcvHKYX3aSSu08SVk5wXAv&index=1>

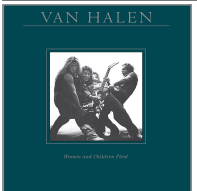
The Rolling Stones / Doo Doo Doo Doo Doo (Heartbreaker) (Goats Head Soup : 1964)



自身のレーベル：Rolling Stones Recordsからの3作目。1968年から続いたブルース／米南部／ルーツロック指向の影が薄まり、新たなるRSの音が満載となった作品である。その新たなる方向とは、ニュー・ソウル／ファンクへの接近。この頃のRSでしか出せない気息さと、ウネるグルーヴ感満載の名盤と言えるだろう。

<https://www.youtube.com/watch?v=sqUiWpGGCml>

Van Halen / And The Cradle Will Rock (Woman and Children First : 1980)



NWOBHMという英国独自のムーヴメントが形成される中、アメリカの凄みを体現していた唯一のバンドがVan Halen

だ。これは、そんな彼らの3rdアルバム。前作・前々作よりもキャッチーな面が少ないせいで、地味という評価をされがちな作品ではあるが、このバンドの音楽的幅広さや、ハードな曲とアコースティックな質感のバランスがとても素晴らしく表現されている。

<https://www.youtube.com/watch?v=11mBDT5mpdw>

☆他：QUEEN, KISS, Deep Purple, Cheap Trick, Rainbow, Arabesque, Bay City Rollers, Billy Joel, ELO, Earth, Wind & Fire, ABBA,..etc

■日本ヤンキー時代突入～洋楽命のバグースを癒した名作：中学生編 (1981~1984)

CCR / Born On The Bayou (Bayou Country : 1969)



米南部系ルーツロックを、秀逸なグルーブと秀逸な曲作りで体現したバンド：CCRの2nd作。このアルバムはセールス的にもヒットを記録し、バンドの出世作となった作品だ。CCRの真骨頂と言える4人が紡ぎ出す悪魔のリズム＝グルーブが満載であり、1度ハマったら抜ける事の出来ないズブズブとした湿地帯のようなサウンドが楽しめる。

<https://www.youtube.com/watch?v=l2zc4rSIBQ4>

Stevie Wonder / Don't You Worry 'bout A Thing (Innervisions : 1973)



グラミー賞最優秀アルバム部門等、5部門を獲得した70年代ソウルの金字塔と言える名盤。このアルバムの前後3枚を含め、SW70年代名盤3部作と呼ばれている。ポップス、ソウル、ロックはもちろんの事、ジャズを色濃く持ち込んでいるのも特徴の1つ。良い曲、良い歌、良いアレンジと、ちょっとした実験性を孕んだ偉大な芸術作品と言っても過言ではないだろう。

<https://www.youtube.com/watch?v=RxsBc5p-dPU>

UFO / Only You Can Rock Me (Obsession : 1978)



1970年デビュー。『神』と呼ばれたマイケル・シェンカーが加入する1974年から一気に世界レベルへと駆け上がっていった、英国の至宝と言えるUFOの7th作。硬質さとキャッチーさを独自のバランスで保ち、ファンのみならず多くのバンドの見本となった作品だ。

<https://www.youtube.com/watch?v=C8LAhjKLhro>

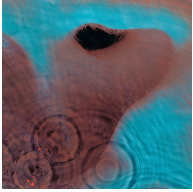
☆他：Led Zeppelin, Olivia Newton-John, Duran Duran, Stray Cats, Free, The Police

Bad Company, Black Sabbath, Ozzy Osbourne, Motley Crue, RUSH, Journey, Boston, STYX, The Doors, Night Ranger, ASIA, The Cars, Slade, The Kinks, Small Faces, Faces, Rod Stewart, Uriah Heep, Whitesnake, Def Leppard, Cactus, Vanilla Fudge, Iron Maiden, Ted Nugent, Sweet, Heart, Scorpions, Fleetwood Mac, Alan Persons Project, Grand Funk Railroad, Foreigner, Prince, Blue Oyster Cult, Alice Cooper, Jimi Hendrix, David Bowie, Johnny Winter, Thin Lizzy, Gary Moore, The Doobie Brothers, Eagles, Hall & Oates, Janis Joplin, Bob Dylan, Raspberries,

Eric Carmen, Tom Petty & The Heartbreakers, 他HR勢, Best Hit USA関連...etc

■プログレへと足を突っ込むバグース：中学生編 (1981~1983)

Pink Floyd / Echoes (Meddle : 1971)



気品、叙情的且つアコースティックな響き、幻想的なサウンド、そのどれもが真似の出来ない唯一無二のバンド：PFの6th作。セールスでの成功+バンドが一段と飛躍した最初の作品である。特にEchoesという曲は、PF屈指の名曲・名演であり、プログレッシブ・ロック全般で見てもベストと言える完成度を誇っている。

<https://www.youtube.com/watch?v=LxksRFZacJI>

<https://www.youtube.com/watch?v=VSJPEZpHKFg>

☆他：King Crimson, Yes, EL&P, Kansas...etc

■ブルージー&ルーツな方向へと足を突っ込むバグース：高校生編 (1984~1986)

Sly And The Family Stone / Life (Life : 1968)



R&B・ファンク・ロックの垣根を壊した先人：SFSの3rd作。ヒットとなった前作：Dance To The Musicと、次作：Standに挟まれ一般的に影の薄い作品となっているが、秀逸且つ斬新なアレンジによって構築されたファンク・ロックは、このバンドならではの裏拍を強調する独特なグルーヴは、それだけでも興奮させられてしまう不思議な魅力に溢れている。

<https://www.youtube.com/watch?v=yDISzuhyaMk>

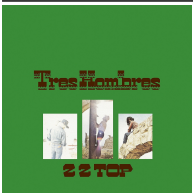
Canned Heat / Let's Work Together (Future Blues : 1970)



米国を代表するBlues Rock Band：CHの5th作。ブルース研究家・コレクターでもあるAlan Wilsonのナヨナヨした歌、身体いっぱいブギーで揺さぶるBob Hiteの個性、さらにはこの作品から加入した名ギタリスト：Harvey Mandelの蛇のようなウネウネギターが加わり、最強のホワイト・ブルース作に仕上がっている。

https://www.youtube.com/watch?v=tnPkEyP_Tzg

ZZ TOP / La Grange (Tres Hombres : 1973)



最強ブギー・バンド：ZZ TOPの3rd作。メンバー・チェンジ無し、音楽性の変化無しで現在も活躍している凄いバンド。ギミック無しのストレートなブルース・ロック／ブギーは、全米のトラック運転手が挙って聴いたと言われ、レコードよりもカセットの売上が凄いという伝説を残している。このアルバムでビルボード8位を記録し、全米ブレイク

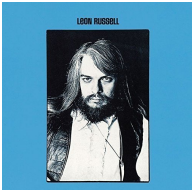
を果たした初期の名盤だ。

<https://www.youtube.com/watch?v=vqz0wRaie2g>

☆他：LA Metal, Genesis, Wishbone Ash, Spencer Davis Group, Traffic, Status Quo, Dire Straits, Robin Trower, Rory Gallagher, Little Feat, Argent, Nazareth, ZZ TOP, Frank Marino & Mahogany Rush, Allman Brothers Band, Blues関連, WAR The Isley Brothers, P-Funk関連, Manfred Mann's Earth Band, Ry Cooder, British Blues関連, Blood, Sweat & Tears, Frank Zappa, Graham Bond, Roy Buchanan, British Folk系, British Beat系, MOTOWN系, New Soul系, Burt Bacharach...etc

■目から鱗のバグース学生時代：東京編 (1987~1989)

Leon Russell / Hummingbird (Leon Russell : 1970)



一世を風靡したLAスワンプのリーダー：LRのソロ1st作であり、スワンプの集大成と言っても過言ではない大名盤。自身のレーベル：シェルター・レコードとしても記念すべき第一号作だ。とにかく全曲が凄い。参加メンバーも派手で、英米ロック界の全能力が集結したような作品と言っても過言ではないだろう。

https://www.youtube.com/watch?v=rokNTY_qLC4

https://www.youtube.com/watch?v=oavp_k4RAkc ←B.B. King Version

Joni Mitchell / Overture-Cotton Avenue (Don Juan's Reckless Daughter : 1977)



フォーク路線からソウル色豊かな路線へとシフトしていったJMの到達点と言える作品／9th作。実験的で難解との評価が多い作品だが、まるで宇宙を遊泳しているかのような感覚にさせてくれる名盤である。この頃参加していた天才ベーシスト：ジャコ・パストリアスとJMの高度な音の紡ぎ合いは、何度聴いても最高である。

<https://www.youtube.com/watch?v=OOyBPOzg0sl>

Parliament / Dr. Funkenstein (Live-P. Funk Earth Tour : 1977)



ファンク史上最高峰と言っても過言ではないライブ盤。怖いもの無しのPファンク全盛期を、余すことなく詰め込んだ興奮度100%の作品である。他ファンク・バンドとは一線を画す個性を放っていたPファンク集団の『お祭り』であり『儀式』と言え、ある意味、宗教の祭典と言ってもおかしくない怒涛のパフォーマンスが展開されている。

<https://www.youtube.com/watch?v=O6fAHTyUtlM>

☆他：Spooky Tooth, Captain Beefheart & His Magic Band, Tom Waits, カンタベリー関連, Curtis Mayfield, Winter Family...etc

■目から鱗のバグース20代初期～中期：東京編 (1990~90年代中期)

Edgar Winter's White Trash / Dying To Live (1971)



Johnny Winterの弟、EWのバンド：WTの1st作。元々コンポーザーとして優れた才能を持っており、コアなファンでなくとも聴きやすいEW流のソウル／ロックを展開している。ブラックとホワイトの世界をバランス良く表現できる感性と、EW&ジェリー・ラクロアという希代の名シンガーの魂がサウンドを揺さぶる。これぞ名盤中の名盤と言えるだろう。

<https://www.youtube.com/watch?v=ka8fJbDK95M>

Dr. John / Right Place Wrong Time (In The Right Place : 1973)



Voodoo教文化を自身の音楽に打ち出したDr. Johnの、ニューオリンズ・ファンク色豊かな名盤中の名盤。6th作。セールス的にも最も成功した作品であり、自身初のビルボード100位以内／24位を記録している。プロデュースにアラン・トゥーサン、バックをThe Metersが務め、ニューオリンズ・ファンク独特のグルーヴを聴かせてくれる。

<https://www.youtube.com/watch?v=W4PjWgiH-LQ>

☆他：The Meters, Allan Toussaint等ニューオリンズ関連...etcこれ以上書ききれず...